

目的 全国女子大生の着衣調査により抽出された四季の標準的着衣を用いて、気温のステップ的变化に対する被検者の皮膚温および、温冷感、快適感の過渡的応答を調べ、標準的着衣の快適域の検討を試みた。

方法 被検者は、19～21才の健康な女子学生5名である。着衣は表に示す通りである。環境温度条件は、各季節毎に設定した中心温湿度（春秋 22℃, 60%, 夏 28℃, 70%, 冬 18℃, 50%）を出発点として、15分間隔で2℃ずつステップ的に上昇（下降）させ、全身温冷感が+3 暑い、（-3 寒い）を限度として折返し下降（上昇）させた。測定項目は、12点法皮膚温、その局所温冷感および全身温冷感、快適感、エネルギー代謝量である。

結果 1. 各季節の着衣の温熱中性域は、春秋22±2℃、夏27±1℃、冬18±2℃である。快適域は、春秋24±4℃、夏27±1℃、冬20±5℃で、夏は他の季節より快適域の幅が狭い。2. 皮膚温は、気温の上昇・下降時で異なり、下降時の方が高い。3. 平均皮膚温と全身温冷感との相関係数は、春秋0.58～0.85、夏0.85～0.92、冬0.68～0.79と着衣によって異なり、春秋、冬にやや低い値を示している。これは、寒冷時の全身温冷感が局所温冷感にかなり左右されることによる。4. 温熱中性域における平均皮膚温は、各季節とも気温上昇時より下降時の方が高く、季節の比較においては、春秋31.93℃、冬31.99℃、夏33.51℃と、夏は他の季節より高い。

表. 四季の標準的着衣

服種		春秋	夏	冬
上 衣	ブラジャー	○	○	○
	スリッパ	○		○
	ブラウス	○		○
	Tシャツ		○	
	カーディガン	○		○
下 衣	オーソペー			○
	ミョーツ	○	○	○
	ガードル	○		○
	パスト	○		○
	ソックス		○	○
	ハイソックス			○
	スカート	○	○	○